

カトリック六甲教会 教会報

2018

11

No.563

		教会暦	教会行事
11 月	1	木 諸聖人	諸聖人ミサ 7:00 10:00
	2	金 死者の日	死者の日ミサ 7:00 10:00
	3	土	教区納骨者および死者祈念ミサ 11:00
	4	日 年間第31主日	秋の墓参
	9	金 ラテラン教会の献堂	教会掃除(担当:東灘北1)
	11	日 年間第32主日	ミサ 7:30 9:00 チャリティバザー 10:00
	17	土	教会大掃除 9:00 地区役員会⑤ 大掃除後
	18	日 年間第33主日 貧しい人のための世界祈願日 聖書週間(~25日)	七・五・三祝福式 10時ミサ中 幼児を持つ親の集い 11:00
	19	月	三日月会 ミサと懇親会 14:00
	21	水	司祭評議会
	23	金	教会掃除(担当:灘北2・阪神) 神戸地区養成研修会 13:00
	25	日 王であるキリスト	クリスマスの飾りつけ 10時ミサ後
	28	水	教区月修
	29	木	定期清掃
30	金 聖アンデレ使徒		

<貧しい人のための世界祈願日 11月18日(年間第33主日)>

いつくしみの特別聖年(2015年12月8日~2016年11月20日)の閉年にあたり
公布された使徒的書簡『あわれみあるかたと、あわれな女』(2016年)で教皇フランシ
スコは、年間第33主日を「貧しい人のための世界祈願日」とするよう決めました。

ご自分を小さい者や貧しい者と等しい者とみなされたキリストに倣い、わたしたちも、
貧しい人、弱い立場にある人に寄り添い、奉仕するよう求められています。

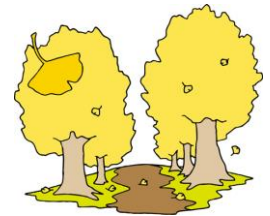
不平等や不正義のない世界の実現に向けて、具体的なわざを通して神のいつくしみのあ
かし人となれるよう、祈り求めていかなければなりません。

*「貧しい人のための世界祈願日」の教皇メッセージは下記ホームページをご覧ください。
<https://www.cbcj.catholic.jp/2017/11/19/14909/>

<聖書週間 11月18～25日(11月の第3日曜日～第4日曜日)>

神の愛を知り、神の心を受け取るために、わたしたちは新約聖書と旧約聖書を神のことばとして読み、大切にします。「聖書週間」は、すべての人、とくに信徒が、この聖書に「より強い関心を持ち、親しみ、神の心に生きる」ようになるための週間です。

各教区では、聖書への関心を高め、より親しむために、講演会、研修会、展示会などの催しが計画されます。このような催しに進んで参加するとともに、自分でも積極的に聖書に近づきましょう。たとえば、毎日欠かさず聖書を1章ずつ読む方法や、ミサにあずかれなくても、ミサの聖書朗読の当日分を毎日読む方法も勧められています。



		教会暦	教会行事
12月	1	土	秋の黙想会 10:30
	2	日	待降節第1主日(C年) 宣教地召命促進の日
	3	月	日本宣教の保護者 聖フランシスコ・ザビエル司祭
	7	金	初金曜日ミサ 7:00 10:00 教会掃除(担当:灘北1・北・三田)
	8	土	無原罪の聖マリア 無原罪の聖マリアミサ 7:00 10:30 ロザリオの祈り 10:00 (六甲教会創立記念日) 社会活動部炊き出し
	9	日	待降節第2主日 小教区評議会 12:00
	14	金	教会掃除(担当:灘北2・阪神)
	15	土	教会学校 クリスマス会・終業式
	16	日	待降節第3主日 幼児を持つ親の集い 11:00 ふれあい広場
	21	金	教会掃除(担当:灘南・神戸西)
	23	日	待降節第4主日 クリスマス音楽の集い 14:00
	24	月	主の降誕(夜半のミサ) 17:00 19:00 21:00
	25	火	主の降誕 主の降誕(日中のミサ) 7:00 10:00
	26	水	聖ステファノ殉教者 教区月修
27	木	聖ヨハネ使徒福音記者	
28	金	幼子殉教者 教会受付休み(年末のため) 教会掃除(東灘北2・芦屋)	
30	日	聖家族	
31	月	教会受付休み(年末のため) 神の母聖マリアミサ 23:00 ミサ後のカウントダウン	

2018年度第3回小教区評議会議事録

日時：2018年10月14日(日) 12:00～13:00

出席者：主任司祭、助任司祭、議長団、評議員

1. 主任司祭挨拶

2. 協議事項

(1) 2019年度予算作成

- ・2018年度上半期各部会の予算執行状況報告(9月末現在)
- ・2019年度各部会活動計画と予算申請

(2) 2019年度行事予定表

3. 報告事項

(1) 地区役員会(7/15・9/2)／納涼の夕べ(8/18)報告 [地区会]

(2) 第4回イエズス会4教会WEB会議(9/8)報告

- ・公式共通ロゴマークの決定(教会報2018年10月号に掲載)
- ・六甲教会からの報告事項
- ・4教会クリスマスメッセージ交換
- ・麴町教会作成「江戸殉教者巡礼マップ」

(3) 典礼奉仕者の集い(9/9)(テーマ「典礼奉仕者の方針」)報告 [典礼部]

(4) 10月神戸地区宣教司牧評議会(10/7)報告 [副議長]

- ・神戸地区大会
- ・2019年平和旬間祈願ミサ／行事

(5) 「六甲教会の祈り」10年後を見据えた六甲教会の重点課題の本年度実施計画

[イグナチオの霊性に基づく祈る共同体ワーキンググループ]

- ・信徒に配布する祈りのカード用「六甲教会の祈り」が確定。
- ・カードデザイン
- ・印刷部数、印刷代
- ・配布時期

(6) その他

- ・東チモールへの文具送付 [社会活動部]
- ・三日月会総会 [三日月会]
- ・蛍光灯のLED取り換え／聖堂北側の木の植え替え [施設管理部]
- ・高山右近列福記念講演会 [宣教部]

第4回小教区評議会 12月9日(日) 12時 信徒会館第4会議室

以上

三日月会総会(9月17日)



今年も9月17日(月)敬老の日の午後、三日月会の総会が行われました。スタッフの人たちはいつものことながら、本当に念入りに準備を下さるので、ありがたく当日を迎えることが出来ました。

会員数は594名に増え、出席者は130名を超え、イグナチオホールはもう満席で過去最高となりました。

1時からごミサが始まり、その中で三名の方が洗礼を受けられました。

すぐに三日月会員となられたのでその後の懇親会にもご家族、代父、代母とともに参加されて、お祝いムードが盛り上がりました。

どうかみなさまいつまでもお元気で神様の御旨に従ってお過ごしください。

祈りのうちに。

(三日月会会長)

ユスト高山右近 列福記念講演会(10月6日) 「良き牧者としての高山右近」



10月6日(土)、デ・ルカ・レンゾ神父(イエズス会日本管区長)を講師にお招きして、標記の講演会が行われました。

戦国時代当時の所謂「南蛮地図」における日本の描かれ方の移り変わり、右近直筆の様々な書状とその現代語訳、そして右近の没後も海外において書き継がれた数々の文書と日本語訳など、多くの貴重な資料が映写によって紹介され、専門的な内容でありながら、大変分かり易く、信仰者としての右近の生涯を紹介して下さいました。中でも印象に残っているのは、寺への狼藉を禁ずる旨の書状です。レンゾ神父によると、他の某キリシタン大名は、改宗によって神社仏閣を粗末に扱うようになったが、右近はそのようなことはなかったとのこと。良き信仰者であり、かつ戦国領主として自らの社会的な役割や責任に忠実であることが、模範的な信徒の姿として現代社会にも通じるものと感じました。

当日、多くの聴講者が見込まれ、イグナチオホールに常置しているテーブルをしまい、椅子だけを並べると約150席となりましたが、そのほぼ全席が埋まる程の盛況でした。講演会終了後、有志の方々が会場の片付けをお手伝いして下さい、大変助かりました。どうもありがとうございました。

なお、ユスト高山右近の列福をテーマとした記念講演会は、過去2年にわたり行われ、今回が第3回目で最終回となります。皆さまのご尽力、ご協力に深謝いたします。

(宣教部)

(参加者の感想)

右近の生きていた時代、出会った人々の手紙などの証言、また彼自身の手紙をもとに、ユスト高山右近がどれほどすぐれたキリスト者であり、早くから信仰のために覚悟をしていた人であったかが明らかにされていった。

まず、彼自身が祈りの人であり、神と向かう時間を大切にしていたことが示され、次に卓越した指導者としての姿が浮き彫りにされた。積極的に神の国を伝え、自ら信徒たちを養成していく方法

を探究した人であった。最後にフィリピンへの追放も新しい世界への旅立ちとしてとらえ、希望を失わない姿は人々に勇気を与えるものであった。

400年の時を超えて、私たちにもイエスに従うよう呼びかける、ユスト右近の声を深く心に刻む貴重な時間となった。(岡村)

リーダーとしての高山右近と、現代の日本での福音宣教について

10月6日(土)のデ・ルカ・レンゾ神父様(イエズス会日本管区長)の講演会のテーマは、「高山右近・模範となる指導者の姿」でした。指導者・高山右近の特長として、弱い立場の人々への愛(慈悲)の心を持ち、対話を大切に(祈りとしての神との対話、信仰を共にする人々との対話、仏教・神道の指導者や信徒との対話、権力者・宣教師との対話等)、人々のタレント(神からの賜物)を見抜いて適材適所に活かし、次世代を担う適任者(リーダー)を育て、何よりも神のみ旨を「識別」して生きていたことが挙げられていました。右近自身が社会と教会の中で神から託された、彼にしかできない「固有の召命」を祈りのうちに探求し、ひたすらその道を生きた人でもありました。その姿は、現代社会の中でも求められるリーダー像であると思います。自分の地位や立場に囚われずに同じ人間として、弱い立場の人々のために、またそうした人々と共に生き、文化的・思想的・宗教的背景の違う人々も尊重して対話を大切に、共同体のメンバーには神からの賜物を見だし成長させ、大きな決断にあたっては常に神のみ旨を祈りのうちに探して選び取る「識別」を身につけたリーダーです。そしてその姿は、そのまま現代のイエズス会教育がめざすリーダー像でもあります。イグナチオの霊性のうちで育てられたリーダーという観点から、高山右近を見直す機会になったことは、今回の講演会を聴かせて頂いた大きな収穫のひとつでした。

講演を聴いて、もう1点関心を持ったのは、どうして高山右近の時代に、基督教の福音のメッセージが人々の心の奥深くまで届いたのだろうか、ということです。高山右近の時代の教会の様子は、生きた信仰を持つ自立した信徒が集い、祈り奉仕する成熟した共同体であったことがわかります。そうした信徒たちには、神との出会いを実感し心に喜びを感じた信仰体験が、きっとあったのだらうと思います。

高山右近の最晩年にあたる1614年にはカトリック信者の数は現在とほぼ同じ約40万人だったとのこと。それは人口比率でいえば、今の約10倍に当たるようです。信徒の数に比べて司祭の数は少なく行動にも制約があったため、信徒がミサに参加できるのはごく稀だったそうです。そうした、司祭から常に指導を受けられるような環境がほとんどない中で、おもに信徒が公教要理に拠って教えを伝え、弱く貧しい立場に置かれた人々に共同体として奉仕し、信仰養成を信徒の共同体として行う組織と仕組みと、そして何よりも燃える信仰があった時代だったことが、レンゾ神父のお話から伝わってきました。

基督教が短い期間のうちに爆発的に広まり、信仰者が増えた要因のひとつには、レンゾ神父様の講演の中でも紹介されていたように、もの珍しがり屋の日本人にとって、西洋の信仰の伝統の中にあつたロザリオやメダイの流行などは外面的なことからではあるものの、基督教文化を違和感なく広めるための助けにはなつたかもしれません。もう一つの要因は、日本人にピンとくるような、日本文化に根ざした形での福音宣教だったことが挙げられそうです。すでに日本文化との対話から生まれた(今で言うインカルチュレーションを試みた)宣教のあり方があつたのだらうと思います。高山右近に洗礼を受けた琵琶法師で宣教師のロレンソ了斎の場合には、その語り口は講談や一人芝居のように、興味深いストーリーと一般の人々に共感できるメッセージが盛り込まれ、わかりやすく伝わるものだったようです。また、高山右近が道として極めようとした茶の湯のように、潜心して取り行う深みのある静かさを大切にす文化(所作とその背景にある心性)には、基督教の共同体的な祈りの姿勢と共鳴し、素直になじむものがすでにあつたのだらうと思います。

ただ、それだけでなく、当時の人々が心の底で求めていたものと基督教の福音とが、出会うことで響き合い神へと導かれる「何か」があつたのだらうと思います。講演の中でその「何か」を

探すヒントとなったのは、ザビエルを日本へと導いたヤジロー（アンジロー）の話でした。ヤジローには、戦乱の世の戦闘状態の中で、刃で人を斬りつけた経験があり、人を傷つけ時に殺めたかもしれないその過去の出来事が、一生涯暗く心の中で抱え続ける後ろめたさとなっていたようです。担いきれない罪の重さを感じ取ってもいたのだらうと思います。その罪深さからの解放と罪の許しをヤジローは希求していた中で、ザビエルを通じて、罪深さを痛感し悔いる者に罪の許しを与えられる唯一の神が存在することを知り、秘蹟を通して罪が許された体験をし、愛である神から許された喜びが、彼の生きた信仰の原点になったのでしょう。

おそらくその「罪の許し」の体験はヤジローだけの出来事ではなく、高山右近をはじめ当時戦乱の世を生き抜いた人々には、心の奥に罪深さを抱えて苦しむ人々が数多くいて、人の罪を許すことのできる唯一の神と出会うことが、魂の救いとなり、その福音の体験が燃える信仰にもつながったのだらうと思います。

今回のデ・ルカ・レンゾ神父様の講演は、私にとって、高山右近の生き方から、現代に通じる、また現代にこそ必要なリーダー像を提示するものでした。それと同時に、① 現代人が願い求める「救い」とは？ ② 現代の日本文化になじむ「福音宣教」のあり方とは？ ③ 現代社会の中で、信徒が自立し相互に信仰を育て合う「生きた信仰共同体」を、どのように作ってゆけばよいのか？ ④ 現代の日本人は、どういう場で神と出会えるのだらうか？ といった課題に取り組むようにと、促された講演会でもあったように思います。 (高橋)

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

- 11月7日(水) 10時 手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでも参加ご自由です。
11月11日(日) 10時 ボランティア支援グループ バザーに出店
11月30日(金) 9時半 ともしび会(イグナチオホール台所) 施設の子どもたちへのケーキ作り
※11月はバザーがあるため、炊き出しとふれあい広場はお休みです。

クリスマス チャリティコンサートのお知らせ

カトリック社会活動神戸センター支援のため

日時: 12月1日(土) 13時~16時(開場 12:30)

場所: カトリック神戸中央教会

主催: カトリック社会活動神戸センター

入場: 無料

(路上生活者支援のための活動資金に皆様から愛の献金を!)

※詳しくは、聖堂入口の掲示板ポスターをご覧ください。



★養成部より★

秋の黙想会のお知らせ

日時：12月1日（土）10時30分～15時（ミサ14時15分～）

場所：六甲教会主聖堂

指導司祭：中井淳神父様（イエズス会）

参加費：無料

事前申込み：不要

今年の黙想会は例年より少し遅い時期の開催*となりますが、多くの方のご参加をお待ちしております。詳細は後日発行のチラシを御参照ください。

*年間行事予定表では当初11月24日に予定されていました。ご注意ください。

～江戸殉教者巡礼マップ～

カスイ岐部と187人殉教者列福10周年記念行事として、今年7月1日に麴町教会で行われた江戸殉教者巡礼の詳細情報が、六甲教会ホームページにアップされています。

ご興味のある方は、東京へ行かれる際、ぜひご活用ください。



<小伝馬町座敷牢跡>



<浅草・鳥越キリシタン殉教記念碑>

チャリティバザーからのお願い



① 出品のお願い

「のみの市」と「古着」は、持込場所・締切日が異なります。ご確認ください。
「のみの市」は、11/4 まで聖堂入口へ。「古着」は、11/2～10 まで信徒会館へ。
提供品が品薄です、皆様のご協力をお願いします。

② 売れ残り処理にはお金がかかります

押入れの片付けのためではなく、自分が欲しくなるようなものを出してくださいね。
最近、100均ショップで手軽に買えるようになり、売れ残りも増えました。
以前は残品を再利用してくれる事業者がありましたが、最近は無くなり、売れ残りの
処理にはお金がかかります。厚かましいお願いですがよろしくお願いします。

③ 参考までに困るのは

自宅で飾っていた大きな額、重たい置物、半端な食器セット、思い出の骨董品、
黄ばんだシーツ、肌着、化粧品、薬、期限切れの食品などです。
大切な遺品のメダイやロザリオも売らないでください。

④ 当日は会場の混雑が予想されます。会場係員の指示に従ってお楽しみください。 雨天決行です。当日の駐車場は使用禁止です。

教会報 12月号の発行は、12月2日(日)です。
原稿は11月18日(日)までに教会受付へご提出
ください。FAX 及びメールでも受付いたします。

(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ	ト	リ	ツ	ク	六	甲	教	会						
〒	657-0061	神	戸	市	灘	区	赤	松	町	3-1-21				
電	話	0	7	8	-	8	5	1	-	2	8	4	6	
F	A	X	0	7	8	-	8	5	1	-	9	0	2	3
Mail address	renraku@rokko-catholic.jp													
発行責任者	アルフレド・セゴビア													
編集	広報部													